

正法寺の歴史は古いですが、現在の正法寺本堂の建物自体はそう古くはありません。大正時代末期に焼失した本堂を、昭和5年頃に再建したのが現在の本堂になります。ですので、本堂の建物自体の歴史は、90年ほどになります。（百年の時はお祝いをしたいですね！）ところで、真宗寺院の本堂というのは、大抵右の写真の様に外陣の畳の範囲がひろくなっています。これは、聞法（仏法のお話を聞く）を最も大切にする宗派だからといえます。特に領内真宗本寺であつた歴史のある正法寺にはたくさん的人が集つていましたので、とにかく広い本堂が望まれ、計画され、多くの方のご尽力で建てられたのだろうと推察します。もう今は会うことのない、先人たちの願いの結晶がまだここ大村に残り続けているということを、この本堂に入ると思わずていけるか？そちらも大切な課題です。



2021.12
第19号
正法寺発行

御正忌(毎年12月)の お飾りはここがいつもと違います！



五具足の仏具

普段の仏具は三具足ですが、報恩講は五具足。
(花瓶2・鶴亀2・香炉1)報恩講期間中は自宅
もぜひ五具足にされてください。



五色幕は、吊るすのも片づけも大仕事。みんなで協力して行っています。ぜひ最終日の片づけまでご参加を！



約400個の小餅と、お椀型の中餅を20個程度みなさんと準備します。



幹づくりからします。
やってみたい方、
募集中ですーー!!!!



お華東に須弥盛(お餅)を飾る



大きな華を飾る



五色幕を吊るす

しんらん聖人の命日のつい

行いがわたしを導く時間

報恩の心に学ぶ
自分との向き合い方

どなたでも、
1回だけでも
参加できます！



「行いがわたしを導く時間」

この講座は、毎月28日、浄土真宗の宗祖、

親鸞聖人の月命日に12月まで開催します。

この講座では必ずお勤めとお念佛の時間
があり、仏事に関わるさまざまなワーク

『作業』を一緒に行っています。それらの

経験の中からみなさんが「仏さまの心」に
気付いていく。また、自分自身の内面と向
き合っていく。そしてワークと自身への振

り返りが感謝の心、報恩の心に繋がってい
く。そんな時間(報恩講)にしていきます。

※「講」…僧侶や信徒が集まって行う
各種の宗教儀式。



正法寺本堂にて

『行いがわたしを導く時間』

毎月28日 13:30~15:30
参加費:500円

※略して「おこみち」と呼んでいます!



2021年6月
ハスワーク

「亡き人を通して
今の自分を見つめてみよう」

最初は不安でも、だんだん形
になっていくと止まりません！



まず、長方形の用紙上部をこります



用紙を紙コップに貼っていきます



配色は人それぞれ



今年初めてチャレンジしたハス
ワーク。住職が、「仏教・真宗の
教えにおいての蓮の花」について
お話しした後、お花作りに挑戦。
親子で、お友達と、夫婦で、とい
ろんな参加がありました。ハス
ワークは、色付けされた和紙の
ような紙を紙コップにのり付け
していく単純な作業です。全部

で、40枚の紙を付けるので、時
間はかかりますがみなさん集
中されてあつという間に完成し
ました。一人一人の指の形や手
癖が作品にもじみ出て、ひと
つひとつが輝いていました。お盆
も近かったので、お供えされた
り、もう一個孫に作りたいと紙
を再購入されたりしました。



仏具磨きは下の写真のように手や洋服が真っ黒になるので、軍手やエプロンの持参をおススメします。彼岸やお盆前にお寺の仏具磨きもあるのでぜひご参加ください。

2021年7月
仏具を磨いてみよう
「そろそろ仏具磨きませんか?」

仏具磨きは、初盆を迎える方にもご案内し、仏具の素材の説明・磨き方の説明をしてから実際に磨いていただきました。ご自宅の仏具は素材によって磨けないものもあるので、注意が必要です。



2021年9月
「親鸞聖人」の絵を楽しもう
「アートを通して知ろう」



本堂に掛けられている4枚の絵の意味、知っていますか??

①の写真のこの部分は、今回詳細が判明。住職も気付いていなかったことがいろいろと明らかに!!



朗読で使用した
「絵ものがたり正信偈」
現在2巻まで発売中。↓



今年テーマにしたアートは、本堂に掛かっている「二河白道」に関する4枚の絵でした。アート繋がりで、「絵ものがたり 正信偈」の朗読も行いました。本堂に上がる度に目にされているはずですが、なかなか細かいところまでは見ていない4枚の絵。内容をご存知の方も少な

いのではないでしょうか? 今回は絵を大きく写しながら住職が書かれている内容を話しました。3・4枚目にはハスワークにも出て来たバス(蓮華)の花が。蓮華の花は「正信偈」にされている花です。「正信偈」のどこに出てくるか? 探してみてください!



2021年10月
花をいけてみよう
「お花をいけるちょっとしたコツ」

花をいけてみようでは、仏花をいける際の重要なポイントを説明の後、用意した花を用いていけてみました。今年のおこみちは、12月の報恩講で終了。来年また、4月から始まります!



洗心会々報

昨年は新型コロナウイルスの

感染拡大防止のために中止して
いた敬老会。今年は、お昼の
部を無くし、規模縮小の形で
無事開催することができます。
ご講師は、これまで通り島
村宣澄先生にお越しいただき
ました。

敬老会

二年ぶりに洗心会主催の
敬老会を開催しました！



3ブロック女性門徒の 総会・研修会

長崎教区が教区改編にて長崎組になり、初めて3ブロック（旧3組）の集いが実現しました。名称も「長崎教区第3組婦人会」から、「長崎組第3ブロック女性門徒の会」と大きく変わっています。こちらも新型コロナウイルスの影響で、中止が続いていました。まだ集まるのも難しい6月9日、大村・波佐見／川棚・佐世保の三ヵ所に分かれ、YouTubeの法話を利用した集会にチャレンジしました！



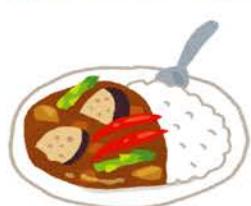
参加者は敬老者24名、洗心会20名でした。敬老者には洗心会メンバーがハスクワードで習ったバスの花をお一人お一人にプレゼントしました。上の写真でみなさんが手に持っているのがバスです。短い時間ではありますが、みなさんと久しぶりにお話でき、楽しいひと時でした。



みんなでお齋覚えてますか？

前回はこれまで作ったお齋の中からレシピを紹介しました。今回は、よく作っていた「精進カレー」の中身を紹介します。作り方は普通のカレーと変わりませんが、肉の代わりにいろんな食材を使用しました。きのこカレー！素揚げした夏野菜をのせた夏野菜カレーなど。他には、厚揚げ豆腐・大豆なども入りました。ジャガイモの代わりにカブをたくさん入れたカブカレーも好評でした。カブが溶けて甘味がでます。これから冬野菜のシーズンにいかがですか？

野菜がメインのカレー



ワンポイント
コメント！



野菜がメインでコクが足りないと感じる場合は、バターで食材を炒めると少し変わります。自宅でも作ってみてください！



坊守の仏ブツ 寺日記



轟轟と流れる時の中に生きている

一番好きな小説だと思う「ムーンライトシャドウ」（吉本ばな著）が映画化されたので観に行きました。少しの不安と共に。好きな小説というのは、自分の中にイメージが何度も再生されているので、それが壊されたらどうしようという気落ちが結構強いものです。でもその点に関して、今回の映画化は全く影響はありませんでした。不思議なくらいに。

自分の中に持っていたイメージが出ていたかというと違うとも言えるし、似ているとかも言える。絶妙な塩梅でした。何よりも、幻想映像と現実の切り返しが秀逸な映画でした。観ていただかないことには伝わらない方法ですが明らかに、現実と、主人公が見ている幻想世界が棲み分けて表現されました。とにかくこの映画に関しては小説「ムーンライトシャドウ」の世界観を壊さず、また、映画としての新たな表現も加わった美しいものになつていています。ただし、ほとんど何の加工もあるかもしれません。

ところで、この小説「ムーンライトシャドウ」は仏教で言う「彼岸と此岸」を強く感じられる話です。こちらとあちら、生きる世界

と死後の世界、二つの世界を分断するものとしまった彼」をくつきりと引き裂くのは「川」です。今回この映画を観たあと、すぐに秋の彼岸が来て毎日ご法話を聞いて、また季節の別れ目を通してはつきりと感じたことがあります。それはこちらとあちらを分断するのは「川」でもあるが、「時」なんだろう、ということです。生きている私を完全に支配しているのは「川」と同じようにいつも流れ続けている「時」です。身の回りに感じる小さな区切りを見せる時というより、宇宙全体で回っている大きな、目には見えない「時」。目に見えないという意味で言えば「時」というのは「川」よりよっぽど幻想的です。なに人は目に見える「川」を軸に、こちらとあちらとに境界を引いては世界を分断して見ています。時はすっかり管理できているつもりで。でも本当は小刻みな小さな時の世界だけで見えては、あちら側と交信はできないのかかもしれません。

人は実は、全く制御不可能な大いなる「時」の中でしか生きていません。轟々と全てを呑み込みながら、想像する余地も残さず、残酷にこちらとあちらを分断しながら今日も時は流れています。



映画「ムーンライト・シャドウ」

原作吉本ばなな
演出小松泰×監督三木道彌

平成最初のベストセラー作家
初期の名作が奇跡の映画化!

moonlight-shadow-movie.com

グリーフケアの視点から ~坊守発信~

前々回に書いた、グリーフケアの観点から発信をします。
『グリーフとは大切な人、ものなどを失うことによって生じる
その人なりの反応、プロセスのこと』

新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、葬儀を中心に行事や仏事の形も変化が大きくなっています。私も人生において大事だった方（親類ではなく）のお別れに行けなかったという経験がありました。これでよいのだろうか？という気持ちも残ります。今までになかったような感覚が起きていると感じています。

新型コロナウイルスの有無に関係なく、身近な方とのお別れというのは人生の中でも非常に大事な時間です。葬儀から49日までの時間を過ごす中で、亡きとの出会い直しが出来、そしてゆっくりとお別れができます。ぜひその時間を大切にしていただきたいと思います。

人は喪失体験をした時、心理的・身体的・社会的など多方面に影響がでます。今回は身体的な面での紹介をします。

身体的影響

【睡眠・食欲・痛み・吐き気・めまい・疲労倦怠感】

特に葬儀に関しては非日常の働きが増え、しばらく生活リズムも変わります。また、突然の死別などは自身の食に関しては無頓着になられるような印象があり、「ちゃんと食べていますか？」などのお声がけもすることがよくあります。周りの方もこののような事を念頭に会話をされるとお互い助け合いが進むかもしれません。

どうか無理のないようにお過ごしください。
次回は心理的な影響を紹介します。

参考図書「コロナ下で死別を経験したあなたへ」⇒
製作:リヴォン 書籍が欲しい方は坊守まで



これも仏教用語?!

普段から使っている言葉には
仏教由来の言葉が実はたくさん。
そんな言葉を紹介します。今回の言葉は、

「睡眠」(すいみん)



「睡眠(すいみん)」は「眠くなる」という生理的な意味で使われます。仏教語の「睡眠(すいめん)」は生理的な意味もありますが、煩悩とも言われます。つまり眠くなれば仏道修行を怠ることにもなるからです。特に浄土真宗は仏法を聴聞する教えですから、「睡眠」が課題になります。

仏教の話を聞いていると徐々に眠気がやってきます。眠るのはよくないと分かっていても、知らず知らずに居眠りをしてしまいます。しかし昔から真宗門徒は、「仏法は毛穴から染み込むもんだ。たとえ眠ってもよい。ひたすら法座へ身を運びなさい」と言わせてきました。眠気を悪いこととして排除するのではなく、眠気をも仏法の出来事へと転換するのが「真宗」です。表層の意識では仏法が分からなくても当然なのです。逆に言えば、居眠りという現象ひとつも自分でコントロールできないものであり、居眠りを引き起こしてくるものこそ仏法のはたらきだと教えるのです。

真宗会館「言の葉カード」より抜粋
武田定光氏・真宗大谷派 因遠寺住職(東京都)



ちゃんぽんやカツ丼のテイクアウトもありました!



やえしょくどう
八重食堂

営業時間 / 11時から18時
〒856-0828 長崎県大村市
杭出津1丁目842-46
0957-53-1202

みつけた!

納骨堂に看板設置中 (2022年9月まで)



納骨堂(門徒廟)護持費に関する無縁納骨壇の改葬告知の看板を設置しております。(第一・第二両方)該当者やお知り合いの方は速やかにお寺までご連絡ください。

※「真宗入門」のコーナーは今回お休みします

今年の12月をもって、き続き正法寺にお世話外のお参りを終えることになりました。これまで月参りを中心に行なうと門徒のみなさまのご自宅にて、また葬儀や通夜等を通して多くの方々にお世話になりましたこと、この場をお借りして御礼申し上げます。今後は、お寺の場を整えたり、法要の裏方などのお仕事を中心に引き受けさせていただきます。



法務員の鍬田さんが外参りを終了します
これからもどうぞよろしくお願い致します。

お世話になりました。そして、これからもよろしくお願いします。



住職が語る『正信偈』 第19回



今回も前回に引き続き、お釈迦様が説かれた教えを正しく解釈してくださった人の高僧、いわゆる七高僧と呼ばれる方々の二番目にあたる天親菩薩について学んでいきましょう。天親菩薩は前回説明したように、『仏說無量壽經』の注釈書である『淨土論』という書物を著された方です。『仏說無量壽經』は『大無量壽經』とも呼ばれておりますが、「仏說」、仏様が説かれたとするようにお釈迦様が説かれた教えです。そして「無量壽經」というのは限りない命の仏様、すなわち阿弥陀如来について説かれたお経ということです。阿弥陀如来はすべての存在を救いたいと願い、その願いを実現するために四十八の誓願を立てられます。その四十八の誓願が詳細に説かれていくのが、この『無量壽經』であり、親鸞聖人は、お釈迦様が世にお生まれになられた本当の目的が説き示してくださいのが、この『無量壽經』こそが、眞実教であると、浄土真宗の中心的な聖典としていただかれています。

この『無量壽經』こそが眞実の教えであると顕かにしてくださったのが天親菩薩の『淨土論』なのです。そのことと親鸞聖人は「依修多羅顯眞實」、つまり「修多羅によつて眞実を顕して」と仰っています。「修多羅」というのはインドの「スートラ」という言葉を

音で中国語に翻訳したものです。一般的には「経」と訳されることが多いです。お釈迦様の教えを文章としてまとめたものということです。ここでは『仏説無量寿経』のことを指します。すなわち『仏説無量寿経』に依つて真実を顕かにしてくださつたということです。ステトラという言葉は「縫う」「貫く」という意味があります。そして漢字の「経」の字は織物のたて糸という意味を持ちます。お釈迦様はその人その人に応じて、様々に言葉を紡ぎながらその人に合った教えを説かれます。その様子はまるで織物の模様のようなのです。そしてその教えの根底を貫くものはあらゆる存在を救いたい、苦しみから解放したいという真実の心です。それがたて糸と表現されるのでしよう。そして『仏説無量寿経』におけるたて糸は南無阿弥陀仏なのです。あらゆるモノを救いたいとの阿弥陀如來の真実の願いは南無阿弥陀仏という形をとつて成就します。それが眞実の功德を具えた名号として私たちに与えられており、その名号を私たちは喜びの心でいただきながらお念佛するのです。

は先ほども申し上げた阿弥陀如来の真実の願い、本願ということです。では横超という言葉はどういう意味かといふと、「横」という言葉は他力を表します。これに対しても自力の仏教は「豎」と表現されます。また「超」という言葉は、通常は経なければならぬ手順を飛び超してということです。これに対してもきちんと段階を踏んで歩みながら煩惱から離れようというあり方を「出」といいます。通常の私たちが持っている仏道のイメージは豎出(けんしゆつ)のあり方ではなくでしようか。一つ一つ階段を上るよう修行を重ねて善根や功德を積んで上を目指し、頂上にたどり着いた時には自らの執着や煩惱から離れているというものです。それに対して自ら努力を重ねなくてはいけないというはからいを横に置きつつ、階段は上らなくてはいけないという常識にもとらわれず、階段を横に飛び超えて、阿弥陀如来の本願不思議の力で救われていくというのが横超のあり方であり天親菩薩が顕らかにしてくださった阿弥陀如来の真実の功德なのです。このことを親鸞聖人は、自力の道を歩むことのできない凡夫の私が歩むべき道があきらかになつたのは『淨土論』の教えのお陰であると喜んでおられるのではないでしようか。そういう親鸞聖人の御心が感じ取れるお言葉が今回の文章ですね。

正法寺について

お寺に身をおく

目まぐるしく変化していく現代社会においては、
お寺はあまり変化がなくつまらないと感じるかもしれません。
しかし長い歴史の中で受け継がれてきた教えや、
それを伝えてきた場は、変化の著しい社会に身をおく我々にこそ、
大切な何かを教えてくれるのではないかでしょうか。



お念佛の道

親鸞聖人が明らかにして下さった「お念佛の教え」は、
阿弥陀如来の大いなる慈悲につつまれて、
何が起こってくるか分からぬ苦難に満ちた人生を、
明るくたくましく力強く生きていく智慧と力を、
この身にいただきしていく教えです。



届いていく場

そのような佛教の教えが届いていく場が真宗寺院の本堂です。
老若男女問わず皆様に開かれた聞法道場として正法寺はあります。
どうぞ様々な紹介などをご覧いただき、
まずはご自分にあった形でお寺にお越しいただけたらと思います。

正法寺住職・坊守

正法寺ホームページ <http://omura-shoboji.jp/>

正法寺 大村

検索

正法寺LINE公式もあります。
まずはお友達登録を！

モバイル端末からアクセスする場合は
QRコードをご利用ください



真宗大谷派
専念山 正法寺

大村市杭出津2-708 TEL 52-2247